

石見銀山遺跡 ニュース

Newsletter of the Iwami-Ginzan Silver Mine Site

MARCH 2007 NO.11

平成19年3月20日発行 第11号

島根県・大田市教育委員会



>> Contents

page 2~3	イコモス(ICOMOS)の石見銀山遺跡現地調査……………	世界遺産登録推進室	足立克己
4~5	石見銀山遺跡国際シンポジウムを開催……………	世界遺産登録推進室	足立克己
6	総合調査から 発掘調査……………	大田市	新川隆・中田健一
7	文献調査……………	世界遺産登録推進室	目次謙一
8	石造物調査……………	世界遺産登録推進室	田原淳史
9	第30回世界遺産委員会に参加して……………	世界遺産登録推進室	佐々木慎二
10	来訪者受入対策について(間歩等現況調査)……………	世界遺産登録推進室	佐々木慎二
11~12	「石見銀山行動計画」の行動状況……………	大田市	長嶺康典・松浦満
13	重要文化財熊谷家住宅の公開始まる……………	大田市	林 泰州
14	整備事業から 町並みを歩く⑩ ~修理の現場から~		
	大森銀山地区……………	大田市	三谷岳史
	温泉津地区……………	大田市	今田善寿
15~16	石見銀山遺跡調査活動等日誌抄		

【イコモスの現地調査風景】
釜屋間歩岩盤遺構本谷地区

イコモス (ICOMOS) の石見銀山遺跡現地調査

世界遺産登録推進室 足立 克己

平成8年から鳥根県と大田市で進めてきた石見銀山遺跡の世界遺産登録の取組も、日本国政府からユネスコ世界遺産センターに「石見銀山遺跡とその文化的景観」の名称で提出された登録推薦書が、平成18年1月4日に正式に受理されたことによって、いよいよ最終段階に入りました。

同年3月にはユネスコの諮問機関である国際記念物遺跡会議 (ICOMOSイコモス) に推薦書の審査が諮問され、同機関による評価作業が始まりました。世界遺産条約履行のための作業指針によると、イコモス評価には推薦書に記載された文化的価値を評価する内容審査と、推薦書に記載された法的保護措置や保存管理体制、あるいは真正性・完全性が推薦書の記載内容どおりになっているかどうかを審査する現地調査の2項目があり、両方の審査結果をもとに最終的な評価レポートが作成され、それがユネスコ世界遺産センターに提出されることになっています。世界遺産委員会における登録の可否決定に大きな影響を与えるのがこのイコモス現地調査だといわれています。

鳥根県と大田市では、推薦書の提出までに、鉱山遺跡としての国際的な評価の獲得や推薦資産のコンセプトの明確化、顕著な普遍的価値と遺跡の完全性・真正性の証明、あるいは文化財保護法による資産の保護、景観保全条例の制定、鉱区禁止区域の指定、史跡保存管理計画・包括的な保存管理計画の策定等、登録に必要な条件をすべて整えてきました。いよいよ

よその評価作業のひとつ、イコモス現地調査を迎えることになりました。

現地調査は建築家で遺産コンサルタントのオーストラリア・イコモス会員、ダンカン・マーシャル氏によって、10月17～21日の5日間で行われました。



▲ミーティング

この調査の受入れには、文化庁記念物課の本中主任文化財調査官のほか、鳥根県から野村純一参事を筆頭に世界遺産登録推進室の5名で、また大田市からは大國晴雄課長をはじめとして石見銀山課の職員などで対応しました。

さて、その調査ですが、実際に現地を見ていただいたのは3日間です。イコモス調査員に石見銀山遺跡の全体像と遺跡が持っている顕著な普遍的価値を



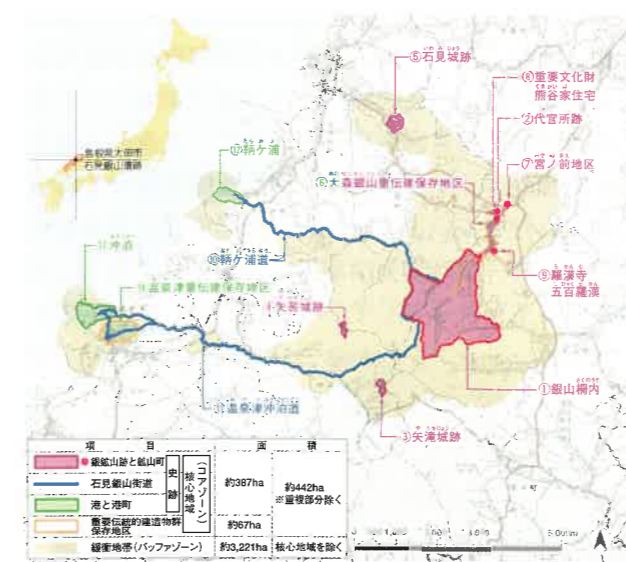
▲釜屋間歩岩盤遺構



▲石見銀山街道温泉津沖泊道沿い西田地区のヨズクハデ

くまなく見ていただき、理解していただくためには、物語性のある調査コースを設定する必要があります。そのためにはこういったコースが適切か、あるいはどの程度の日数が必要か、推進室では遺跡を事前に再度歩きなおして、コースと説明の時間を練りました。最終的な調査コースは、調査員が来日したあとのミーティングで決まりますが、事前準備が大変重要です。

3日間の現地調査は、1日目が鉱山跡とビジターセンター、2日目が鉱山町と山城跡、鞆ヶ浦と石見



▲石見銀山街道温泉津沖泊道・清水地区

銀山街道鞆ヶ浦道、3日目が石見銀山街道温泉津沖泊道とそれに続く港・港町をテーマに調査してまわりました。

最終日の21日、離県に際してマーシャル氏は、今後2週間以内に評価レポートをまとめ、それをパリのイコモス本部に提出したいと言っていました。パリ本部でその成果をもとに本格的な評価作業が開始され、今年5月末ごろまでにはその結果と提言が



▲重要文化財熊谷家住宅

ユネスコ世界遺産センターに送付されます。そして、6月23日～7月2日にニュージーランドのクライストチャーチで開催される第31回世界遺産委員会で最終的に世界遺産登録の可否が決定される予定です。

このイコモス調査では、スケジュール通り不足なく、石見銀山遺跡のすべてを見てもらいました。中世からの銀鉱山跡と現在も住民が暮らす重伝建地区や港湾集落、その機能を停止しながら昔ながらの景観が残る港湾や銀山街道など、多彩な構成要素が自然と共存しながら文化的景観を形成している特質を十分理解してもらえた(本中主任調査官の記者会見での談話)ものと思っています。来たる6月23日からの世界遺産委員会に良い結果が出るよう、期待しています。



▲沖泊

石見銀山遺跡国際シンポジウムを開催

世界遺産登録推進室 足立 克己

鳥根県では、一昨年から石見銀山遺跡の内容やその普遍的価値、さらには世界遺産登録後の保存管理の必要性について理解を深めていくため、海外から講師を招いて、国際シンポジウムや公開フォーラムを開催してきました。

平成17年度に開催した「鉱山遺跡の顕著な普遍的価値と保存管理に関する専門家国際会議」では、鉱山に関する遺跡と豊かな自然環境が一体となって文化的景観を形成している点が高く評価されました。そこで、今年度のシンポジウムでは、イギリスとドイツから保存管理や博物館運営に携わっている専門家を招いて世界遺産の先行事例を紹介してもらいながら、上述した鉱山遺跡の文化的景観について理解を深め、そしてその保存や将来への継承をどのように進めていくべきかを考えていくことにしました。

シンポジウムは、平成18年5月28日(日)、「鉱山遺跡の文化的景観～石見銀山遺跡の未来を考える～」

というテーマで、大田市の鳥根県立男女共同参画センター「あすてらす」で開催されました。当日午前中にはイギリス・ブレナボン産業遺産のプロジェクト・ディレクター、ジョン・ロジャー氏、ドイツ・ゴスラー市のランメルスベルク博物館学芸員ハンス・ゲオルク・デットメル氏、筑波大学大学院世界遺産専任助教授の黒田乃生氏、そして大田市石見銀山課長の大國晴雄氏の4氏による基調講演があり、午後には日本イコモス国内委員会理事で、当遺跡のこれまでの国際シンポジウムや専門家国際会議にも参加していただいている東京文化財研究所文化遺産国際協力センター国際企画情報研究室長の稲葉信子氏をコーディネーターとして、上記4氏によるパネル・ディスカッションが行われました。

イギリスの「ブレナボン産業景観」は、19世紀の鉄鉱石と石炭を中心とする鉱物資源の採掘から精製、輸送システムまで、当時の産業景観を極めて完

◎コーディネーター
稲葉信子氏



シンポジウム▶

◎パネリスト
(左から)
ジョン・ロジャー氏
ハンス・ゲオルク・デットメル氏
黒田乃生氏
大國晴雄氏



3市総合政策部石見銀山課長
大國晴雄氏



▲ブレナボン産業遺産 (左：製鉄所、中央：ロゴマーク、右：メインストリート)

全な形で物語る傑作として、2000(平成12)年に世界遺産に登録されました。基調講演でロジャー氏は、疲弊・荒廃化したブレナボンの町を再活性化するため、ブレナボン・パートナーシップを組織して、官民協働の地域振興活動を行っていることや、地域住民に向けて炭鉱業や鉄鋼業に従事した人々の物語を情報発信していること、ワーデンと呼ばれるガイド兼遺跡パトロールの存在や、統一したロゴマークを作成したことなどを紹介されました。

ドイツのハンス・ゲオルク・デットメル氏からは、ランメルスベルク鉱山について発表していただきました。

同鉱山はドイツ中央部ハルツ山脈の山麓に位置し、800年にわたる見事な鉱山遺跡群と、ゴスラー旧市街に残る鉱山経営に関係した宮殿や教会、鉱山労働者の住宅などが高く評価され、「ランメルスベルク鉱山と古都ゴスラー」として、1992(平成4)年に登録されました。同鉱山でも博物館活動として、18世紀後半以降の採掘や排水システム、20世紀前半の最新設備を備えた工場などを見てまわる、地上と地下の両方を見学ツアーの企画や鉱山労働者からの聞き取り調査による記録作成など、ブレナボンと同様の取組が行われていることが紹介されました。

黒田乃生氏からは、景観とはいったいどんなものなのか、世界遺産における文化的景観とは何か、日本の文化財保護法で扱う文化的景観とどのように違うかをわかりやすく説明していただきました。特に同氏がフィールドワークとしている白川郷での住民意識調査で、登録がもたらしたプラス面とマイナス

面を紹介されたときには、会場から驚き、納得、共感、いずれとも取れる大きさなどよめきが起こりました。

午後のパネル・ディスカッションでは、「産業遺産」の「文化的景観」を保存するにはどうすべきかについて議論されました。ロジャー氏とデットメル氏か

らは、ブレナボンやランメルスベルクの産業遺産の価値として、鉱物の採掘から流通に至るまでの産業システムに絡んで、それらに携わる様々な人々の沢山の物語～ストーリー～がそこに秘められていることが強調されました。そして石見銀山遺跡も含めて、地域全体が産業遺産の文化的景観として今も生き続けているという意見に対して、他の参加者からもそ



▲ランメルスベルク鉱山 (左：博物館、右：鉱山坑道内部)

うした文化的景観こそ地域の人々が歴史を伝えてきた証であるという賛同が寄せられました。そして、今後世界遺産として自分たちの遺産を守って行くには、地域の住民自ら、過去を十分に読み解き、評価したうえで、それを未来に伝え、あるいは来訪者に発信することが大事だということで意見がまとまりました。



▲岐阜県白川郷

(1) 発掘調査 大田市 新川隆・中田健一

今年度は銀山柵内の実態確認と、大森地区の地下遺構の資料を得ることを目的に調査を行っています。

①大森地区の調査

大森地区では駒の足地区と蔵泉寺口地区で調査を行いました。駒の足地区は、銀山附地役人であった宗岡家の庭と考えられる場所で、3面の遺構面を確認しました。上面は出土遺物などから18世紀頃と考えられ、道に近い側では建物跡の基礎と思われる石列と土間面を検出しました。

調査区が小範囲のため建物の性格は明確にできま



▲宗岡家調査の状況

せんが、建物の位置から門長屋の可能性が考えられます。

また、宗岡家の主屋に近い側では底面と側面を石で囲った石組み遺構も検出されました。漆喰状の粘土で目張りされていることから池もしくは水溜めと推定され、庭の一部を構成するものと考えられます。現存の建物が、これらの遺構と同時期のものであれば、建物は寛政の大火(1800年)以前の建築ということになります。

下層では、整地土やズリ・カラミ層の堆積を除き、表土から約1.2m下がったところで石列や杭などの遺構、陶磁器、下駄などの遺物が検出されました。

出土した陶磁器は、中国から輸入された磁器や初期の唐津焼きなどが中心であり、下層で確認された遺構は16世紀末～17世紀初頭の銀山最盛期のものと確認されました。

蔵泉寺口地区では家屋の改修に伴う試掘調査を行いました。この建物は明治期に建てられたと考えられていますが、以前の改修時に床下から江戸期まで遡る石組みの溝が見つっています。調査区は、この溝の延長線上となり、本来あった溝を埋めて、溝

の方向を変えていることが明らかとなりました。建物を避けるようにしていることから建物を建てる時に流路を付け替えたようです。検出された溝は出土遺物から19世紀頃のものと考えられます。

②本谷地区の調査

本谷地区の調査は今年で4年目となります。

銀山最盛期の江戸時代初期の遺構が見ついている地区です。釜屋間歩岩盤加工遺構の2段目の調査では、調査区を広げたところ、選鉱用の水溜と建物跡のみが確認され、この2段目は選鉱施設であったようです。また、釜屋間歩前の第2トレンチでも、調査区を広げて調査を行い、礎石建物を検出しました。

ここでは選鉱のための水溜め遺構や、精錬を行っていた炉跡なども見つかり、採掘から精錬までの一連の作業をこの谷内で行っていたことが分かってきました。

さらに調査区西側では谷の中央を通る道路遺構と側溝も確認でき、本谷の構造解明が進んでいます。

この他、岩盤加工遺構の対面に位置する岩盤の表土を除いたところ、岩盤を削って階段状にした通路や、岩盤加工遺構と同様に岩盤を垂直に削り落としている痕跡が見つかりました。



▲本谷地区釜屋間歩周辺

今回、本谷で調査した遺構はいずれも江戸時代初期を中心とした時期で、ほぼ同時代に銀生産の操業が行われていたことも判明し、この辺り一帯が当時大規模に開発されていた状況がうかがえます。

史料に見える山師安原備中(伝兵衛)は、このあたりで大いに稼業したといわれています。

今回の調査では、そのことをうかがい知る手がかりが現れたといえるでしょう。

さらなる調査によって、謎が多くわかりにくいといわれる遺跡の実態がますます明らかになっていくことと思われます。

(2) 文献調査 世界遺産登録推進室 目次 謙一

今年度は、石見銀山遺跡現地や周辺にいわば埋もれている古文書・文献(史料)を掘り起こす調査を引き続き行っているほか、江戸時代初めの鉱山開発者(山師)安原備中(伝兵衛)の関連史料を調査しています。

(1) 城上神社の能面について

江戸時代の代官所跡(現石見銀山資料館)の近く、威風堂々とした拝殿(島根県指定文化財)が印象的な神社が城上神社です。極彩色の竜が大きく描かれた、拝殿の「鳴き竜」の天井がよく知られています。

さて、この夏には、江戸幕府・代官の庇護を厚く受けた同社に代々伝えられている、能面三面(大田市指定文化財・後述の能面箱も同じ)を拝見させていただく機会を得ました。

これらは、黒漆塗りの地に下がり藤の紋が金蒔絵で施された、能面箱に納められています。白式尉(翁)・黒式尉(三番叟)・増女の3種類があり、大きさは17cmから20cmで、状態良く残っています。おそらく、これらの面を用いた能楽が同社で奉納されたのでしょうか、興味深いところです。

現在、これら能面三面は祭礼等で用いられることはありませんが、初代石見銀山奉行の大久保長安が

同社へ寄付(寄進)したものと伝えられています。大久保長安の父は猿楽衆大蔵大夫と言われているので、かつて猿楽と呼ばれていた能と大久保長安とは、つながりがあったのかもしれませんが。

また、今回拝見させていただいた折りに、面裏に花押(署名)が残されていることを確認しました。三面ともありますが、白式尉と黒式尉とは同じ花押とみられます。この花押の形式を一つの手がかりに、年代や人物の特定ができないか、現在調査を進めています。



▲白式尉と花押

(2) 安原備中関連の棟札調査

本谷の釜屋間歩では、江戸時代初期、年3,600貫(13.5トン)の銀を幕府へ納めた『銀山旧記』は記して

います。この間歩を開いたという石見銀山の山師安原備中は、備中国早島(現岡山県早島町)の出身でした。

その故郷ゆかりの名社吉備津神社(岡山市吉備津)には、社殿の整備時に安原備中がたびたび資金を寄付したことを物語る、棟札群が残



▲吉備津神社棟札の調査

されています。棟札とは、建物の由緒・建築主・施工者・年月日等を記して棟木に打ち付けられた板のこと。今回は、江戸時代初期の棟札1点について、所蔵者の吉備津神社様ならびに寄託先である岡山県立博物館様にも御許可をいただき、調査させていただきました。

この棟札は、同社御竈殿の再建にかかる慶長17年(1612)のもの。長さ231.8cm・幅14.9cmと細長く、表面には建築主である安原備中とその一門や、工事に携わった大工・瓦師の名前等が記されています。解説文は既に『岡山県古文書集』等の史料集で紹介されていますが、表面に付着したすすや経年変化のために墨書の一部が読みづらくなっており、誤読・未読の部分もありました。そこで今回の調査では、赤外線ビデオカメラ撮影による解説を試みました。

棟札を前にした一同が赤外線ビデオカメラによる画像をのぞき込むと、確かに墨書がくっきりと画面に映っています!。判読不能の部分を読めるなど、赤外線ビデオカメラは威力を充分発揮したのです。この画像を手がかりにしつつ、棟札の状態や墨書を観察・検討し、既存の解説文とも照合しました。

さらに驚くべきことに、この棟札には肉眼で文字が全く無いように見えた裏面にも墨書があることが判明しました。今後の新たな発見が期待されることであり、今年度刊行する安原備中関連史料集ではこの棟札の表裏面とも解説文を掲載する計画です。

(3)石造物調査

……温泉津地区の分布調査

世界遺産登録推進室 田原 淳史

石造物調査では、銀山地区・大森地区の調査が一段落し、昨年度より温泉津地区の調査を実施しています。昨年度は、温泉街の中ほどにある恵瑠寺の墓地において、あまり類例の知られていない「廟式墓地」をはじめ五輪塔・宝篋印塔などの石造物について調査を行い、多くの成果を得ることができました。

ただ、温泉津地区においてはこれまでのところ、どこにどのくらいの石造物があるのかといった基礎的な情報があまり把握できていませんでした。そこで、今年度はそれを把握するための「分布調査」から始めることにしました。

分布調査は温泉街と温泉街両側の山の中を中心に6月14日～16日の3日間にわたって実施しました。

その結果、これまで知られていたものも含めて、



▲見つかった宝篋印塔の部材



▲石造物調査部会の様子

約30箇所墓地等、石造物の存在する場所を確認することができました。今回確認できた場所には、寺院にある墓地のように600基近い墓石のあるところがある一方、既に人々に忘れ去られ山中にひっそりと佇んでいるものもあります。

これらについては、どのような時期のどのような形態の石造物がどのくらいあるのか、といったより詳しい調査をし、それらの図化や写真撮影といった作業が必要となってきます。

分布調査の結果を受けて開催された石造物調査部会では、今後温泉津地区の石造物調査をどのように進めていくかが話し合われました。

部会での検討の結果、比較的古い石造物が確認された西念寺について、今年度と来年度に調査を実施することとなりました。

温泉津地区の石造物調査はまだ始まったばかりです。今後の調査ではいったいどのようなことが明らかになるのか、期待されるところです。

調査の成果については改めて公表していきたいと考えています。みなさまのご協力をお願いします。



▲西念寺と石造物群

「第30回世界遺産委員会に参加して」 世界遺産登録推進室 佐々木 慎二

昨年の7月にリトアニア共和国の首都ビリニユスで開催された第30回ユネスコ世界遺産委員会に、当室から足立主幹と共に参加しました。

世界遺産委員会は、世界遺産条約締約国の中から選任される21の委員国（現在は日本もメンバーです。）が参加して毎年開催されます。締約国から世界遺産として推薦された物件は、最終的にこの委員会で登録の可否が決定されます。

参加の主な目的は、委員会の議論を直接聞き、世界遺産登録に係る最新の傾向（審査の方向性や登録時に要求される事項など）を把握することで、次回に予定されている石見銀山遺跡の登録審査に万全を期すということでした。そのため、新規登録に係る審査期間を中心とした日程になりました。



▲委員会の様子

新規登録（文化遺産の場合）の審査は、概ね以下のとおり進められました。

最初に、ユネスコの諮問を受けて調査を行ったイコモス（国際記念物遺跡会議）から、当該物件について3分程度の説明が行われます。説明項目は、①物件の概要、②法的保護の状況、③保存にとっての脅威点、④真正性と完全性、⑤顕著な普遍的価値、⑥類似の物件との比較分析結果、⑦勧告（＝登録の可否についての意見）などです。

この説明を基に、各委員国が意見や質問を述べ、イコモスや委員会事務局が答えていきます。特に、ア)物件の保護が法的に保障されるか、イ)バッファゾーンが適切に設定されているか、ウ)高速道路や橋梁などの建設が景観を損なわないか、といった点は厳しくチェックされました。

また、文化的景観の審査においては、「自然と文化の相互作用」ということが重視され、文化的価値だけでなく自然的価値も適切に保護していくこと（例：自然景観の保護、動植物の多様性の維持など）が強く求められました。このことは、文化的景観としての石見銀山遺跡の今後の保存管理を考えていく

上で、大変参考になりました。

議論が尽くされた後、世界遺産への登録の可否が決定されます。通常は、2、3の委員国が「登録すべき」とか「登録しないで審査を継続すべき」などの意見を述べ、他の委員国から異議がなければ議長がその内容で採決するという形です。ただし今回は、議論の中で結論がまとまらず、無記名投票によって可否を決定したものが1件ありました。さすがに異例なケースだったようです。

今回の委員会では、自然遺産2件と文化遺産16件の合計18件の新規登録が決定され（複合遺産はなし）、世界遺産の総数は830件となりました。また、危機遺産（＝危機に瀕している世界遺産）として新たに2件が登録され、逆に5件が外れたため、その総数は31件となりました。併せて、「顕著な普遍的価値」という登録基準を明確化するための取り組みや、遺産の保存状況を継続的にモニタリングするための「定期報告」のあり方を次回の委員会で引き続き議論することなども決定されました。

文化遺産の登録審査の議論を聞きながら感じたのは、世界各地域の多種多様な文化的価値を根拠として推薦されてきた物件を同一の登録基準で評価することは大変難しい、ということでした。その意味でも、「顕著な普遍的価値」という基準を明確にすることは、登録審査の適正性を確保するためには避けて通れない、大きな課題であると言えます。



▲旧市街地区（世界遺産）にある大聖堂

今回、世界的規模の会議に参加し、各国代表の生の声を聞くことができたのは、とても貴重な経験でした。次回の委員会は、今年の6月23日からニュージーランドのクライストチャーチで開催されます。そこで日本14番目の世界遺産が誕生するよう、この経験を生かして万全の準備をしていきたいと思えます。

来訪者受入対策について(間歩等現況調査)

世界遺産登録推進室 佐々木 慎二

石見銀山遺跡においては、平成9年度から13年度にかけての学術調査により、583箇所の間歩と51箇所の露頭掘の存在が確認されていましたが、その後の状況は把握できていませんでした。

また、平成17年8月に同和鉱業(株)から鉱業権の譲渡を受けたことにより、現在、県は鉱業権者として間歩及び露頭掘(以下「間歩等」という。)の安全管理義務を負う可能性があります。

このような事情から、間歩等の現在の状況を把握するとともに、必要な箇所に立入禁止杭の設置等の安全対策を行うため、間歩等現況調査を実施しました。



▲間歩

調査は、昨年の4月から約3ヶ月にわたり、同和工営(株)に委託して行いました。主な調査項目は、以下のとおりです。

- ①所在地(世界測地系によるXY座標値、標高値)
- ②規模(間歩については入口の大きさ、形状)
- ③間歩等及び周囲の状況 ④坑道等の方角

このうち、③について程度別に分類したのが表1及び2です。間歩入口については、埋没が徐々に進行している傾向が見られました(表1)。また、露頭掘については、前回から大きな変化はありませんでしたが(表2)、露頭掘周囲の風化が進んでいる箇所がいくつか見られました。



▲立入禁止杭及び危険防止柵の設置状況

(表1) 間歩入口の状況

程度	前回	今回	増減
完全に残存	217	212	△5
半分程度埋没	206	201	△5
殆ど埋没	141	130	△11
完全に埋没	19	40	+21
合計	583	583	0

(表2) 露頭掘の状況

程度	前回
完全に残存	15
半分程度崩壊	34
殆ど崩壊	2
完全に崩壊	0
合計	51

※内訳は、前回調査時と同じ。

一方、安全対策としては、260箇所の間歩に立入禁止杭を設置するとともに、特に必要と判断した3箇所で危険防止柵を設置しました。

なお、大田市では、遺跡を適切に保存管理していくとともに、世界遺産登録により見込まれる来訪者の急増に対応するため、大久保間歩の一般公開に向けた整備をはじめとする史跡整備事業に今年度から着手する予定です。今回の調査結果は、この整備内容を検討する際の基礎データとしても活用されます。



▲露頭掘

最近では、民間のボランティア活動等の協力もあり、銀山の景観整備が徐々に進んでいます。今回の調査においても、竹木の除伐等により山肌が露わになった場所で新たな間歩らしきものが見られたとの報告もありました。

現在、銀山内で発掘調査が完了したのは、遺跡全体の0.1%の部分に過ぎません。今後も様々な調査を行い、遺跡の全容を解明していく必要がありますが、その過程で間歩等の数が大幅に増える可能性も十分あると思います。

「石見銀山行動計画」の行動状況

大田市 長嶺 康典・松浦 満

平成17年の6月に市内外のプランナー200名により「石見銀山協働会議」が発足し、「保全」「活用」「発信」「受入」の4分科会によりワークショップを重ねてきました。これらの成果は「調査研究」も含め5分野からなる「石見銀山行動計画」として平成18年3月に策定されました。そして平成18年度から「プランナー」は「プレイヤー」となるよう行動しています。

「保存管理」

～地域全体で石見銀山の保存管理を行うとともに、住民と来訪者がともに安心して過ごせる仕組みをつくる～

○保全活動体制整備事業/クリーン銀山

- ・5/23 民間団体と行政の協働により「石見銀山維持保全活動連絡会議」設立
- ・7/30 「クリーン銀山」実施 / 場所:温泉津町日村地区 参加者37名
- ・10/8 「クリーン銀山」実施 / 場所:大森町地内 参加者80名
- ・12/9～10 NPO緑と水の連絡会議により「石見銀山世界遺産を守る森づくり」開催 参加者70名
- ※その他に、民間団体による石見銀山の清掃活動を随時実施しています。

○「石見銀山ルール策定・普及事業」

- ・6/26 大森町自治会協議会と行政の協働により「石見銀山ルール検討委員会」を設置
- ※以後、住民主体により「住民憲章」「マナー」「空家・空地の活用基準」などについて検討しています。



▲7/30 クリーン銀山(温泉津町日村)



▲10/8 クリーン銀山(大森町城上神社)

「活用」

～今ある地域の資源を見つめなおし、素材を十分に活かすことにより、石見銀山の価値を高める～

○石見銀山ツーリズム企画事業/温泉津町西田地区

- ・9/9 地元の「ヨズクハデ保存会」と酒造りグループ「五郎之会」の共同事業として、「ヨズクハデ景観保全活動」を実施
- 酒米の稲刈りに併せヨズクハデを5基設置 参加者60名
- ※ヨズクハデ…竹や木を三角形の塔のように組み立て、稲穂を掛けた姿が巨大なヨズク(ふくろう)のように見えることから名付けられました。



▲▼ヨズクハデ

○石見銀山ツーリズム企画事業/海から見た石見銀山

- ・8/26 「海から見た石見銀山」実施 / 場所:仁摩町馬路地区 参加者42名
- 「宅野の海でシーカヤック体験会」実施 / 場所:仁摩町宅野地区 参加者20名

○銀の道ウォーク企画事業

- ・10/14 ウォークイベント実施 / 場所:銀山街道温泉津沖泊道 参加者82名
- ・10/24～28 ウォークイベント実施 / 場所:銀山街道尾道ルート 参加者51名





▲8/26 海から見た石見銀山



▲10/14 ウォークイベント(銀山街道 温泉津沖泊道)

「情報発信」

～石見銀山の多様な価値を理解してもらうために、地元での学習機会の提供や情報発信体制の整備を行う～

○石見銀山体験講座

- 9/16～18 大学生を中心に全国から参加を募り「石見銀山体験講座」を実施
NPOもくもくと大田市共催 参加者25名



○石見銀山学習プログラム事業

- 7/26 協働会議プランナーを中心に「学習プログラム検討ワークショップ」を設置
※以後、平成20年4月にオープン予定の拠点施設を中心に展開する「学習プログラム」の策定に向け検討中です。

○石見銀山ブランドイメージ構築事業

- 7/20 協働会議プランナーを中心に「石見銀山ブランディング準備委員会」を設置
※以後、石見銀山における地域ブランドづくりの方向性を検討中です。

「受入」

～自然環境と住民生活に配慮しながら、来訪者の知的好奇心を満足させる受入体制を整える～

○石見銀山交通対策検討事業

- 5/4～6 ピーク時における交通対策のあり方について、「パーク&ライド方式」による実験・調査
- 8/13～15 路線バスを活用した「パーク&ライド」方式による実験・調査
- 11/3～6 国交省「公共交通活性化プログラム」事業を導入し、公共交通を活用した総合的な交通システムのあり方についての実証実験

※これらの実験・調査で得られたデータ等を基に、平成19年4月から「石見銀山方式の受け入れ態勢」を大田市大森町でスタートさせます。



▲5/4 大森観光センターでシャトルバスを待つ観光客



▲5/4 大森の町並みを散策する観光客

重要文化財熊谷家住宅の公開始まる

大田市 林 泰州

ようすは、人から人へと「暮らし」が伝えられるひとときともいえます。

座敷からつながる土蔵でも「暮らし」の展示を行っています。熊谷家が実際に使っていた道具類や衣服をはじめ、暮らしを伝える日常的な品々です。いずれも熊谷家から大田市に寄附された家財(3291点)の一部です。

家財の整理・分類や展示は地元の女性たちが取り組みました。初めてのことばかりでしたが、小泉和子氏(昭和のくらし博物館館長)の監修もあって、工夫を凝らした温かみの感じられる展示となっています。女性たちは「家の女たち」と呼ばれ、現在は熊谷家住宅の日常管理と館内ガイドを担っています。

保存修理工事と並行した熊谷家文書調査の成果は、小林准士氏(鳥根大学助教授)の監修で熊谷家の歴史をテーマとした展示に活かされています。今後も調査は続けられ、展示も更新される予定です。この展示室では、住宅の変遷や特徴、保存修理工事を詳しく紹介する映像システムもご覧いただけます。

熊谷家住宅の活用の核心は石見銀山に関わる大森の町の代表的な建物を用いた「暮らし」を伝える教育です。一般の方々にはくらしに力点を置いた展示を通して、子供たちには熊谷家住宅での体験学習等を通じて「くらし」を伝えようとしています。

一般公開施設としての熊谷家住宅は、順調に滑り出したと言えますが、子供たちへのアプローチは市内小学校の協力を得てさまざまに試行をおこなっているところです。熊谷家住宅の運営委員会委員長でもある小泉和子氏の監修を得て、学校の先生方とともにユニークで楽しく学べる「くらし」体験学習を実践するため、検討と試行を重ねています。

保存修理工事を終えた熊谷家住宅の一般公開を平成18年4月22日から始めました。訪れた人々は、部屋数の多さと複雑な間取り、台所の広さなど外観からは容易につかめない規模の大きさに驚き、工夫を凝らしたユニークな暮らしの展示を楽しんでいます。入館者数は平成19年1月末に3万8千人を超えました。

まずは、復元された熊谷家住宅を通りから眺めてみましょう。約33メートルにわたって町筋に面している総漆喰塗籠の堂々たる建物は、町並みの大半が焼けた寛政12年(1800)の大火後、享和元年(1801)に建築されました。開口部の少ない正面は、防火や防犯上から屋敷の内外を隔てる意図があったのではないのでしょうか。同じ意図からか屋敷の周囲には高さ2.3メートルの土塀が巡らされています。

それでは熊谷家住宅の中に入ってみましょう。まず最初に幕府の巡見使や大名家の役人の応接などに用いられた座敷へ。この座敷は大森町年寄、代官所御用達、御用掛屋などを務めた熊谷家の歴史と家格を最もよく現しています。

雲立涌文様(黄土地に銀色)を用いた襖・壁紙で内装を整えられた座敷は、夏には御簾と葦戸を用いたしつらいとなります。開け放たれた座敷に風がとおり、開放感のある部屋となります。

2階を巡って階段を下りると、蔵前座敷や地下蔵を備えた居間を見学できます。熊谷家で実際に使われていた家財を利用し、先ほどまでそこに家族が座り、くつろいでいたかのような臨場感のある展示としています。

台所では、使い込まれたまな板や大型の蒸籠、竈などが並び、煮炊きするよい匂いや煙が漂ってくるかのようです。訪れた方が台所用品の使い方を懐かしそうに語っている



▲屋敷全景(CG)



◀居間と地下蔵



▲熊谷家住宅正面



▲体験学習の試行

町並みを歩く 10 ~修理の現場から~

大森銀山地区 (大田市 三谷岳史)

小川家主屋 明治初期以前の建築 (推定)

大森町昭和区にある町家です。現所有者は昭和50年代に入居されましたが、昭和初期までは前所有者が旅館を営んでいたとのこと。

昭和49年の町並み調査の写真をみると(右下写真)、入り口は現在の位置で半間の幅しかなく、現況の左手の座敷部分には掃きだしのガラス戸が立ち、内部は通り土間に繋がる土間になっていました。しかし、正面の柱に座敷の框が取り付いていた痕跡を確認しており、建築当初は座敷だったと推測しています。

と推測しています。

このことから、建築当初は通り土間と座敷の設え、その後に座敷を落として土間としたようです。座敷を落とした時期や理由は分かりませんが、旅館の営業上から必要があったものと思われます。その後、現所有者により再び座敷が設けられました。

修理は屋根替えと外観の復元を行いました。当初の案は、掃きだしガラス戸の外観を復元する予定でしたが、柱の痕跡を基に建築当初の姿を復元することとしました。



〈修理前〉



〈修理後〉



昭和49年当時の写真

建具はアルミサッシュが入り、屋根の周囲や壁は漆喰の剥落が激しかった

半間となった入り口の右手には、かつて座敷が設けられていた。内部は玄関ホールだが、外観は座敷だった時期を復元した

温泉津地区 (大田市 今田善寿)

坂根家主屋 明治30年頃の建築 (伝聞)

中町の北側に位置する町屋型住宅です。建築年代は明治30年頃と伝えられます。2階正面には袖壁と塗籠めた戸袋が良く残っていました。

家の配置は、通りに面した主屋、背後には中庭を挟んで総2階の離れ屋が建っています。かつては、さらにその

背後に“7間長屋”がありました。

明治期には東隣の建物と共に「名田屋旅館」として使用されていましたが、大正4年から用途を分離して「坂根雑貨店」となり、大正6年より平成13年までは「坂根スポーツ店」として使われていました。

今回の修理は、現状維持を基本とした工事を行いました。



〈修理前〉



〈修理後〉

石見銀山遺跡調査活動等日誌抄

平成18年1月1日～12月31日

1/4	ユネスコ世界遺産センターが世界遺産登録推薦書を受理	3/30	国営市) 第2回アモンド型交通サービスと情報提供システム検討会(於:大田市役所)
1/9	市) 重文熊谷家住宅町民対象内覧会	4/5-7	市) 小泉和子氏熊谷家住宅現地指導
1/9-11	県市) 文化庁参事官室西山調査官伝建地区現地指導(於:大森銀山・温泉津地区)	4/15	市) 奈文研主任研究員村上隆氏講演会「石見銀山と関わって～研究者から見た石見銀山の面白さ～」(於:町並み交流C)
1/10	県市) 第2回石見銀山遺跡関連緊急課題対応策検討会議(於:県庁)	4/21	市) 大田市伝建審議会(於:町並み交流C)
1/12	県市) 第13回石見銀山遺跡アクションプログラムプロジェクト会議(於:出雲合庁)	4/21-22	市) 斎藤英俊、細見啓三、村田信夫氏伝建地区現地指導(於:大森銀山・温泉津地区)
1/21-22	県市) 島根ふるさとフェア2006で石見銀山情報発信(於:広島市)	4/22	市) 重文熊谷家住宅竣工式、一般公開開始
1/24	県市) 第3回石見銀山遺跡関連緊急課題対応策検討会議(於:県庁)	5/14	市) 第1回金銀銅サミット大田(大田ロータリークラブ主催、於:サンレディ大田 450名参加)
1/26	県市) 文化財防火デー(於:温泉津町沖泊、大森町)	5/15, 18	県市) 石造物調査部会(於:銀山発掘調査事務所)
1/30	国営市) 第1回デマンド型交通サービスと情報提供システム検討会(於:大田市役所)	5/18	県市) 発掘調査部会(於:銀山発掘調査事務所)
2/2	市) 大森町地元意見交換会(於:町並み交流C)	5/19	市) 重文熊谷家住宅入館者1万人突破
2/9	県市) 第7回石見銀山遺跡調査整備委員会現地視察(於:大森町)	5/20	市) 温泉津自治会長会議(於:温泉津コミュニティC)
2/9-10	県市) 文化庁記念物課白崎調査官現地指導(於:石見銀山遺跡)	5/27	県市) 石見銀山遺跡国際シンポジウム関係者現地視察(於:石見銀山遺跡)
2/10	県市) 第7回石見銀山遺跡調査整備委員会(於:大田市あすてらす)	5/28	県市) 石見銀山遺跡国際シンポジウム「銀山遺跡の文化的景観」(於:大田市あすてらす、ジョン・ロジャー氏、ハンス・ゲオルク・デットメル氏他 260名参加)
2/11	市) シンポジウム「地域教育における生産遺跡のあり方」、金銀銅高校生サミット(於:サンレディ大田)	6/6-8	県市) 文化庁参事官室熊本主任調査官伝建地区現地指導(於:大森銀山・温泉津地区)
2/12	市) 仁摩町馬路地区地元説明会(於:高山会館)	6/10-11	県) 石見銀山遺跡探索ツアー(於:大森町 130名参加)
2/13	県市) 第14回石見銀山遺跡アクションプログラムプロジェクト会議(於:出雲合庁)	6/11	市) 重文熊谷家住宅お茶席実験
2/14	県市) 第4回石見銀山遺跡関連緊急課題対応策検討会議(於:県庁)	6/14-16	県市) 温泉津地区石造物分布調査
2/17	県市) 第1回石見銀山展実行委員会(於:県庁)	6/15	県市) 第6回石見銀山遺跡関連緊急課題対応策検討会議(於:県庁)
2/20-21	市) 小泉和子氏熊谷家住宅活用現地指導	6/17-18	市) 大田市議会「石見銀山遺跡調査整備特別委員会」発足
3/5	市) クリーン銀山(於:沖泊40名、鞆ヶ浦25名参加)	6/22-24	県) あすてらすフェスティバル2006で石見銀山情報発信
3/6	県市) 第15回石見銀山遺跡アクションプログラムプロジェクト会議(於:県庁)	6/26	市) 小泉和子氏熊谷家住宅現地指導
3/7	県市) 第5回石見銀山遺跡関連緊急課題対応策検討会議(於:県庁)	7/2	市) 大森町自治会長説明会(於:町並み交流C)
3/8-4/4	市) 石見銀山写真展～銀山と積出港の風景～(於:サンレディ大田他)	7/12-13	市) 大森町民史跡一斉清掃
3/8	市) 大森町各種団体長説明会(於:町並み交流C)	7/17-19	県) 全国知事会議で石見銀山情報発信(於:松江市くまびきメッセ)
3/12	県市) 第4回石見銀山官民協働会議全体会、以降「行動計画」に基づき「石見銀山協働会議」として活動開始(於:サンレディ大田 130名参加)	7/21	市) 大森町地元説明会(於:町並み交流C)
3/17	市) 大田市議会全員協議会において拠点施設立地場所を「ふれあいの森公園(大森町)」了承	7/17-19	集中豪雨により小規模災害発生(於:石見銀山遺跡)
3/18-25	市) 大森町交通実証実験	7/21	県市) 新潟大学山岸宏光教授現地指導(於:五百羅漢他)
3/19	市) 大森町梅まつり	7/28	国営市) 第1回石見銀山交通対策検討委員会(於:大田市役所)
3/23-25	市) 小泉和子氏熊谷家住宅閉館準備現地指導	8/6	市) 温泉津伝建地区地元説明会(於:温泉津ゆうゆう館)
3/25	市) 「守ろう石見銀山」竹切り活動(於:大森町)	8/7-9	市) 市民の祭り「天領さん」(於:大森町)
3/29-31	県市) 西谷正氏石見銀山遺跡現地指導(於:石見銀山遺跡)	8/8	県) 文献調査団熊谷家文書調査(於:大田市立図書館)
		8/8	県市) 生物調査検討会(於:三瓶自然館サヒメル)
		8/9-10	県市) 元奈文研所長町田章氏現地指導(於:石見銀山遺跡)
		8/9	県市) 石見銀山展示請負者提案競技審査委員会(於:古代出雲歴史博物館)

石見銀山遺跡調査活動等日誌抄

平成18年1月1日～12月31日

8/11	県市)県市合同会議(於:県庁)	10/15-16	市)小泉和子氏熊谷家住宅現地指導
8/21	県市)石造物調査部会・立正大学池上悟教授現地指導(於:温泉津コミュニティC)	10/17-21	国県市)イコモス(国際記念物遺跡会議)調査員による石見銀山遺跡現地調査
8/24-25	県市)文化庁記念物課清野調査官現地指導(於:石見銀山遺跡)	10/21	国県市)イコモス現地調査の文化庁・県・市合同記者会見(於:大田市役所)
8/28	市)大森町自治会協議会地元説明会(於:町並み交流C)	10/30	県)石見銀山遺跡関係次長会議ワーキンググループ会議(於:県庁)
9/1	県)日本鑄造工学会中国四国支部講演会(於:大田市スカイホテル)	10/31-11/2	県市)石造物調査(於:温泉津西念寺)
9/5	国県市)第2回石見銀山交通問題検討委員会(於:大田市役所)	11/9	県)石見銀山遺跡関係次長会議(於:県庁)
9/11-12	県市)文化庁記念物課岩本課長・関課長補佐現地視察	11/22-24	県)文献調査団熊谷家文書調査(於:大田市立図書館)
9/14-15	市)大田市伝建審委員村田信夫氏伝建地区現地指導(於:大森銀山・温泉津地区)	11/23	市)発掘調査現地説明会(於:本谷地区釜屋間歩周辺)
9/15	市)水上町地元説明会(於:水上公民館)	11/27	市)大森町地元代表説明会(於:町並み交流C)
9/17	県)「創作能 石見銀山」上演(於:島根県民会館、脇田晴子氏他)	12/1	市)石見銀山課・観光課・大田市観光協会を隣接して銀山関連の窓口集中化
9/18	市)発掘調査現地説明会(本谷地区釜屋間歩周辺)	12/5	県市)科学調査部会(於:銀山発掘調査事務所)
9/18	市)脇田晴子氏による一般公開講座「石見銀山と能ー二つの世界遺産」(於:サンレディ大田 50名参加)	12/11	市)大森町自治会協議会説明会(於:町並み交流C)
9/19	市)大田市議会銀山特別委現地視察	12/14-15	県市)文化庁記念物課白崎調査官現地指導(於:石見銀山遺跡)
9/25	市)大森町自治会協議会説明会(於:町並み交流C)	12/14-16	県市)大田市伝建審委員村田信夫氏現地指導(於:大森銀山地区)
9/26	市)第1回石見銀山遺跡整備検討委員会(於:大田市役所、委員長:東北芸術工科大学教授田中哲雄氏)	12/15	市)第2回石見銀山遺跡整備検討委員会(於:大田市役所)
9/27	市)久利町自治会協議会説明会(於:久利公民館)	12/15-16	市)小泉和子氏熊谷家住宅現地指導
9/28	市)第2回石見銀山プロジェクト推進本部	12/15-17	県市)大田市伝建審委員斎藤英俊氏現地指導(於:温泉津地区他)
10/4-5	県市)文化庁記念物課佐藤調査官現地指導(於:石見銀山遺跡)	12/16	市)大田市伝建審議会(於:仁摩公民館)
10/5	県市)第7回石見銀山遺跡関連緊急課題対応策検討会議(於:県庁)	12/17	県)吉備津神社棟札調査(於:岡山県立博物館)
10/12	市)水上町住民説明会(於:水上公民館)	12/17	県)文献調査部会(於:大田市立図書館)
		12/22	市)第3回石見銀山プロジェクト推進本部・幹事会開催
		12/23	県)2006 BIG X'MAS PARTYで石見銀山情報発信(於:松江市くまびきメッセ)

世界遺産へ「輝きふたたび石見銀山展」開催!

■開催期間

平成19年 7月14日(土)～9月24日(月)

■開催場所(2館同時開催)

- 古代出雲歴史博物館(出雲市大社町)
石見銀山が日本史や世界史に大きな影響を与えたことを、全国の貴重な文化財やポルトガルにのこる銀製品で紹介! 石見銀山の壮大なロマンを感じることができます。
- 石見銀山資料館(大田市大森町)
石見銀山現地に今も伝わる貴重な資料を展示! 現地とセットで見ることにより、石見銀山をより深く知ることができます。



■御取納丁銀

毛利氏が朝廷に献上した石見銀の貨幣(島根県所蔵)

■辻が花染丁字文道服

徳川家康が銀献上の褒美として石見銀山の山師に与えた道服(大田市清水寺所蔵)

